

公開実用 昭和60—103409

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報(U)

昭60-103409

⑫ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)7月15日

A 45 D 33/16
33/26
B 65 D 5/166671-3B
6671-3B
6540-3E

審査請求 未請求 (全頁)

⑭ 考案の名称 筒形コンパクト容器

⑮ 実 願 昭58-195397

⑯ 出 願 昭58(1983)12月21日

⑰ 考 案 者 狐 塚 進 一
⑱ 出 願 人 吉 田 工 業 株 式 会 社
⑲ 代 理 人 弁 理 士 一 色 健 輔東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内
東京都墨田区立花5丁目29番10号

考案の名称
1. 考案名称

明 細 書



筒形コンパクト容器

2. 実用新案登録請求の範囲

両端を閉止した中空筒体の中間部周壁を断面略半円状に切除した開口を有する外筒と、該外筒内に回動自在に略半円形の内筒を軸支し、該内筒を回動させることで該開口を開閉できるものであって、該内筒には区画された複数の凹所と該内筒の長手方向に沿って延びる棒状化粧用具収納用孔部とを形成する一方、該外筒には該内筒を回動させ該開口が開放された時だけに該孔部と連通して収納されている化粧用具の取出しが可能となる透孔を形成してなることを特徴とする筒形コンパクト容器。

3. 考案の詳細な説明

この考案はコンパクト容器に関し、特に筒形に成形されたコンパクト容器に関するものである。

従来、コンパクト容器は扁平な矩形あるいは円形に形成され、内部に一種類の化粧料を収納した

比較的大きいものが主流を占めていたが、近年各種化粧料の開発、使用の多様化等により複数の化粧料を組合わせて使用する傾向が大きくなってきた。

この場合、コンパクト容器は外出先等でも使用しハンドバック等に入れて携帯されるため、複数の化粧料を収納しても携行に嵩張らずできるかぎり小形にすることが要望される。

この種の要望に応じるべく、コンパクト容器を円筒形に形成し、その内部に複数種の化粧料を収納できるようにした、例えば実開昭58-61109号公報に開示された如きコンパクト容器が提案されている。

しかしながら、上記公報に示されたものを含め、これまで提供されているこの種の容器には以下に示す問題があった。

すなわち、この種のコンパクト容器では、化粧料を収納した容器本体と、これを開閉する蓋体とは、通常蝶番ピンで枢着しており、このため部品点数が増加しコストアップとなるとともに、この

蝶番部が外観上に露出し、この種の容器で重要な外観を損うという問題があった。

また、使用時にあっては蓋体を外方に開き、半円形の容器本体と連ねて用いるため、不使用時のコンパクトさに対し比較的大きな場所を必要とするという欠点もあった。

さらに化粧料を付着・保持させるブラシあるいは筆等の棒状化粧用具は、通常容器に凹部を形成してその中に収納するように構成しているが、これが蓋体を開ける際の振動や、ハンドバック内で携行時の振動等で凹部から離脱し、紛失したりあるいは廻りの他のものに化粧料が付着するという問題もあった。

この考案は上述した如き従来の問題点を解消すべくなされたものであって、その目的とするところは、比較的簡単な構成によりコストアップとならず、且つ外観が損われずしかも使用時においても不使用時と同等のコンパクトさを有するとともに、化粧用具の離脱・紛失がない筒形コンパクト容器を提供するところにある。



以下、この考案の好適な実施例について添付図面を参照して詳細に説明する。

第1図から第4図は、この考案に係る筒形コンパクト容器の一実施例を示すものである。

同図に示す筒形コンパクト容器は、第1図(a)に示す外筒10と同図(b)に示す内筒20とで概略構成されている。

外筒10は、両端が側壁部10a、10aで閉止された中空円筒体の中間部周壁を断面略半円状に切除した開口10bを有するとともに、側壁部10a、10aの内側面の略中心には凹状の軸受10c、10cがそれぞれ形成されており、一方の側壁部10aには中心より下方の偏心個所に透孔10dが穿設されている。

また、外筒10の周壁10eの端部には、これを凹状に切欠した凹部10fが形成されている。

一方、上記内筒20は、直径が上記外筒10の肉厚に相当する大きさだけ小さい中実円筒体の周壁中間部を、断面略半円状に切除して形成された平坦面20aと、この両端に一对の立壁20b、

20b が形成されており、平坦面 20a には化粧料あるいは鏡 22 が収納される区画された複数の凹所 20c、20c が形成されているとともに、立壁 20b、20b の外側面略中心には外方に突出する軸部 20d、20d がそれぞれ突設され、且つ前記凹所 20c、20c の下方には、内筒 20 の長手方向に延長し、前記立壁 20b の一方にのみ開口する棒状化粧用具収納用孔部 20e が形成され、さらに内筒 20 の周壁 20f には上記外筒 10 の凹部 10f と嵌合する把手部 20g が設けられている。

上述のように構成された内筒 20 は、孔部 20e の開口が外筒 10 の透孔 10d 側を向くようにして、立壁 20b、20b に突設された軸部 20d、20d を、それぞれ外筒 10 の軸受 10c、10c に嵌合して、外筒 10 内に回転自在に軸支され、内筒 20 の凹所 20c、20c が下方を向いた状態で、外筒 10 の凹部 10f と内筒 20 の把手部 20g とが嵌合して、内筒 20 が外筒 10 に係止され、外筒 10 の開口 10b は内筒 10 の

周壁 20f で閉止される（第2図（a）参照）。

この状態では、第3図に示すように内筒20の孔部20eは、上方に位置しており、且つ外筒10の透孔10dは下方に位置していて連通していないため、孔部20e内に収納されている棒状化粧用具24は、容器外に抜け落ちることはない。

他方、内筒20を矢印方向に回動させていくと、第2図（b）に示すように外筒10の開口10bが少しずつ開放され、第2図（c）に示す如くこれが完全開放された状態では、内筒20の凹所20cが上方を向くとともに、第4図に示すように孔部20eと透孔10dが連通した状態となり、孔部20e内の化粧用具24の取出しが可能となり、これを取り出して化粧をすることができる。

さて、上述の如く構成された筒形コンパクト容器にあっては、内筒20を外筒10内に軸受10cと軸部20dを嵌合させて回動自在に軸支し、内筒20を回動させることで開口10bを開閉するため、従来のこの種の容器のように開閉機構が外観上露出することがなく、容器の外観を好適に

維持できる。

しかも、上述した回動機構は、蝶番機構のように部材を追加することなく得られるとともに、これらの機構を構成する軸受10c、軸部20d等は、外筒10、内筒20の成形と同時に一体成形が可能であるため、大量生産に適するとともにその製造コストを大幅に低減できる。

また、上述したコンパクト容器にあっては、使用時においても内筒20は、外筒10の外形からどの部分も突出することがなく、使用・不使用時のいずれにおいても占有する容積は変わらず、そのコンパクトさを維持できる。

さらに、内筒20の孔部20e内に収納されるブラシ、筆等の棒状化粧用具24は、開口10bが開放された使用状態においてのみ、孔部20eと透孔10dとが連通して取り出せることができるため、例えばハンドバック内にこの容器を入れて携行し振動が加わったとしても、化粧用具24が容器外に離脱することは全くなく、確実に容器内に保持され紛失を防止する。



なお、第 3 図および第 4 図における符号 26 は、化粧量を充填する中皿である。

以上実施例で詳細に説明したように、この考案に係るコンパクト容器においては、この種の容器では大きな比重を占める外観を維持し且つ経済的有利性も有する等種々の効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図はこの考案の一実施例を示すもので、同図 (a) は外筒、同図 (b) は内筒のそれぞれの斜視図である。

第 2 図は上記実施例の筒形コンパクト容器の開閉状態の説明図で、同図 (a) は閉止状態、同図 (b) は開放途中、同図 (c) は開放状態をそれぞれ示している。

第 3 図は第 2 図 (a) の I—I 線断面図、第 4 図は第 2 図 (c) の II—II 線断面図である。

10 …… 外 筒

10b …… 開 口

10d …… 透 孔

10a …… 側壁部

10c …… 軸 受

10e …… 周 壁

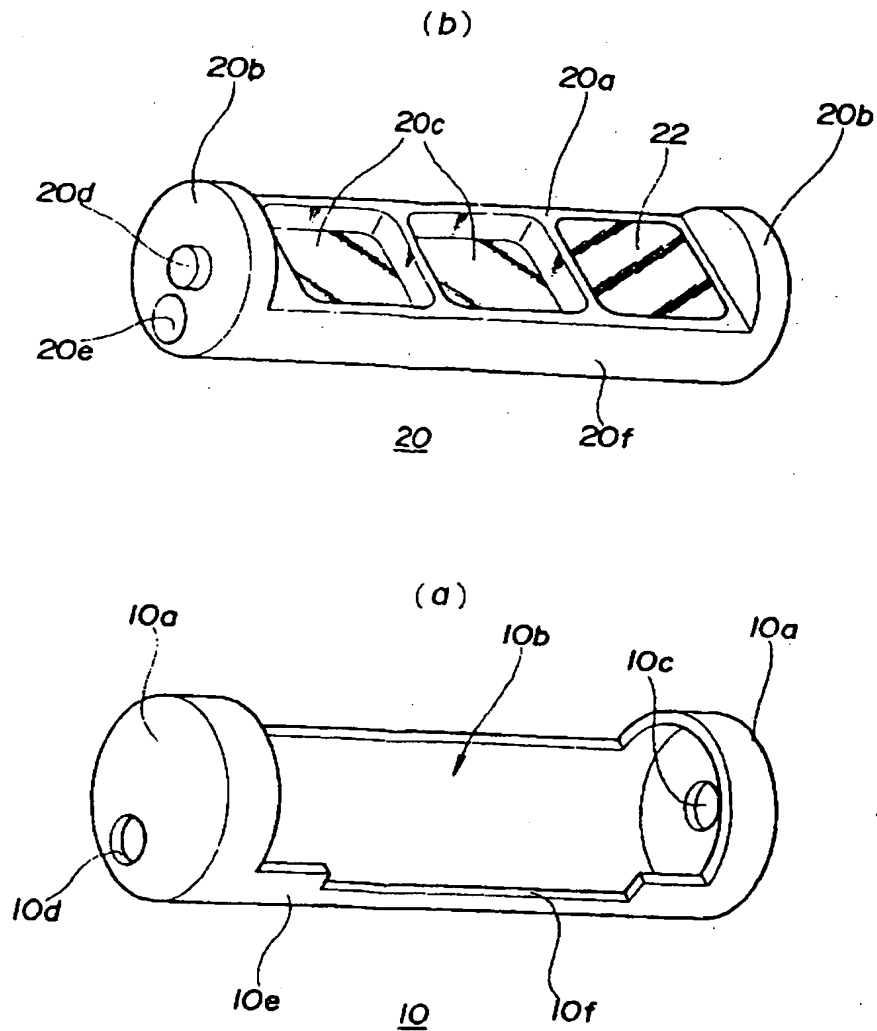
1 0 f ... 凹 部
2 0 a ... 平 坦 面
2 0 c ... 凹 所
2 0 e ... 孔 部
2 0 g ... 把 手 部
2 4 ... 棒 状 化 粧 用 具

2 0 ... 内 筒
2 0 b ... 立 壁
2 0 d ... 軸 部
2 0 f ... 周 壁
2 2 ... 鎖

実 用 新 案 登 録 出 願 人
代 理 人

吉 田 工 業 株 式 会 社
弁 理 士 一 色 健 輔

第 1 図

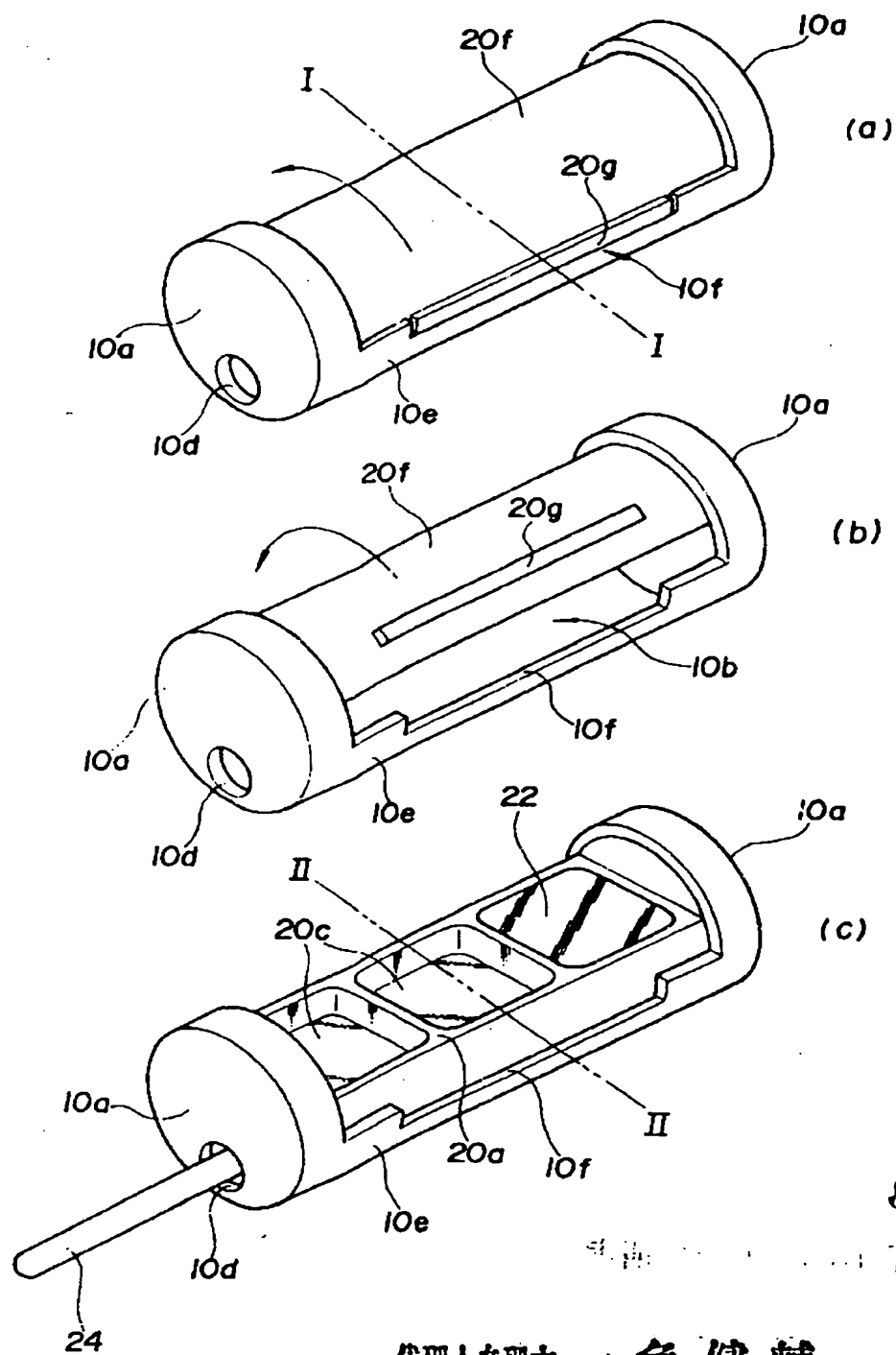


82

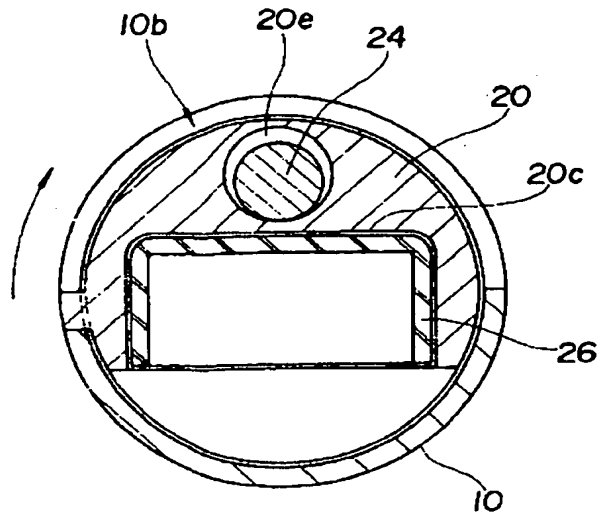
実開 60-103409

代理人弁理士 一色健輔

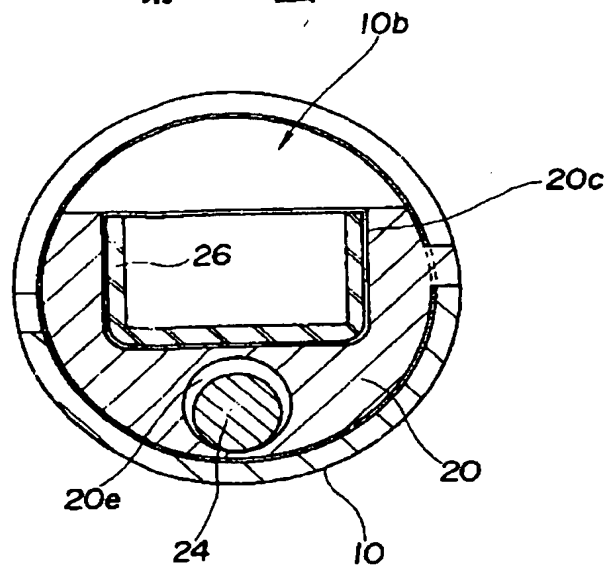
第 2 図



第 3 図



第 4 図



84

実用60-103409

代理人弁理士 一色健輔